



♡童貞処女

♡イケメン×イケメン

♡絶倫×おとなしい

♡おもらし

♡おしっこ

♡潮吹き

♡純愛



僕は人とは違う特殊な体質だ。

とはいっても超能力が使えるとか、人の心を読めるとかそういうオカルトの類ではなく、単純に人より膀胱が大きいというだけだ。

これに気づいたのが高校生の時。先にトイレに入った僕より、後に入ってきた友達の方が早くトイレを終えてトイレを出ていく姿を見て、そのときはなんとなく僕はトイレに時間がかかるんだなあって気持ちだった。しかし友達が、車の中でおしっこが我慢できなくなって、ペットボトルにおしっこをしたという話をしていた。500mlのペットボトルギリギリに収まって、たくさん出た、危なかったと話していたのを笑いながら聞いて、自分はどれくらい出せるのかなって気になって、500mlのペットボトルを2つ用意した。このときの失敗はこの実験を部屋で行ってしまったことだ。できるだけたくさん出そうと、おしっこを限界まで我慢した。そのあとに部屋でズボンとパンツを脱いで濡れないようにしてからペットボトルをあてがった。限界まで我慢してた僕のちんちんはすぐに勢いよく放尿した。通常時皮をかぶってる僕のちんちんは、皮を剥かないと女の子みたいなシューーーーーーという音を立てておしっこをする。あまりにも我慢してたので皮を剥く余裕もなくペットボトルにもものすごい音を立てておしっこをする。でも500mlしか容量がないペットボトルはすぐいっぱいになり、まだまだ膀胱がぼんぼんな僕はあわてておしっこを一瞬止めて、新しいペットボトルを手を取ったところで我慢できずおしっこがすぐ出てしまって、床に盛大にお漏らしした。空のペットボトルを再びちんちんの先にあてたところで、絶対に容量が足りないことに気づいた。放尿の解放感に浸る頭を必死に回転させてどうしようか考えるも、おしっこは止めることができずにペットボトルがすぐにいっぱいになった。とっさに目に入ったさっき脱いだズボンが目に入り、手に取ってちんちんを包むようにしておしっこを吸い込ませた。でもそれもすぐにおしっこを吸い込めなくなり、今度は部屋の隅のゴミ箱が目に入った。ズボンにおしっこをしみこませながらゴミ箱まで歩き、膝立ちになってゴミ箱の中に残りのおしっこを出し切った。この時から僕の性癖は歪んでいったんだと思う。トイレ以外の場所でおしっこすることに背徳感を感じつつも、我慢した後にするおしっこに興味を覚えた。部屋の掃除が大変なことだけがネックだったが、それ以上の満足感が僕の体に駆け巡った。

やがて僕は大学生になり、学校生活も問題なく送っていた。ある日の夜、オカズを探すためにSNSや動画サイトをめぐっていたら、おしっこやお漏らしの動画を投稿してる人を見つけた。初めて見る動画にドキドキしながらも、以外にもおしっこ関係はコアな層に人気があるらしい。もしかしたら僕の大量に出るおしっこも需要があるかもしれないと思った僕は、動画を撮ることにした。大学の企画でスマホ用の三脚を持っていたので、トイレに持って行ってセットした。ちょうどトイレから入ってくる様子から映るようにして、さらに顔が映らないよう配慮した。ドキドキしながらスマホの録画ボタンを押して一旦トイレから出た。そしてトイレに入ってドアとカギを閉め、普通にいつもおしっこするようにズボンとパンツをずらしておしっこをした。いつも通りたくさん出る僕のおしっこを眺めながら、動画のタイトルを考えていた。ジョボボボボボボボと豪快な音をたてながらのおしっこもやがて止まり、僕はスマホの録画ボタンを押して録画を止めた。時間は3分近くになっており、冒頭部分をカットするにしても長すぎる。おまけにぼくはおしっこの切れが悪いから余計時間がかかっている。それでも需要あるかなあと思いつつ顔が映ってしまっていないか等確認してドキドキしながらSNSに投稿をした。もちろん個人情報は一切出し

てない、いわゆる裏アカだ。しばらくしてからスマホを確認すると、僕史上一番の通知が来ていた。びっくりしたが、いろんな人に僕のおしっこを見てもらってることに興奮した。ついたコメントを見てみると、やっぱり量が多いってコメントがあって、顔が見えていないのに気持ちよさそうとか、生で見たいとか、こういうシチュエーションでお願いしますとかたくさんコメントがついていた。僕は気持ちよくなって、一つ一つにコメントを返した。その中でも量を図ってほしいというコメントがいくつかあったので、100円ショップで1Lの計量カップを2つ買った。この日もできるだけおしっこを我慢して、部屋に三脚を立てて録画ボタンを押した。膝立ちになった僕はズボンからちんちんだけを出して、計量カップにおしっこをしていく。1Lではもちろん足りなくて、2杯目の計量カップに差し替える。変える際におしっこが止められず床をびしゃびしゃと少しだけ濡らした。2杯目もすぐおしっこでいっぱいになり、もう少し出そうな僕はどうすることもできずカップからおしっこをあふれさせてしまい、床をびしょびしょにした。この動画も投稿したところ、また反応が多くて僕はさらに快感を覚えた。

こうなってくると、コメントを送ってくるだけではなく、ダイレクトメッセージで感想を送ってくる人もいた。その中に、僕がフォローしてるイケメンのゲイの人からダイレクトメッセージが届いていた。僕は驚きながらダイレクトメッセージを開いた。

「はじめまして！フォローしてくれてたのびっくりした！よかったらオフで会わない？たくみくんのおしっこ、直接見てみたいな！」

まさかあこがれの人からメッセージが届くなんて...しかも僕のおしっこをみたいと言ってくれてることがうれしくて、それを想像するだけで勃起してしまった。うれしくなった僕は迷わず会いたい内容のダイレクトメールを返信した。そのあとは日程や場所決めをしてからダイレクトメッセージを閉じた。

出会う日当日になり、僕は遠足前の小学生のように前日からドキドキして楽しみにしていた。待ち合わせの場所に早くつきすぎたので、そのまま待つことに。一応スマホを取り出して到着した旨を相手に伝え、今日の服装の特徴だけ伝えた。あまりにも気合を入れすぎてもいやだし、かといってだらしない格好でも会えないので、頑張っただけ普通に見えるようにした。

「たくみくん？」

スマホを見ながら相手を待ってたら、上から声がかかり、顔を上げるとスマホの画面で見てた人が目の前にいた。

「こんなかわいいと思わなかった！はじめまして、ゆうたです」

「わ、初めまして、たくみです」

思ったより近い距離で話されて思わず少し後ろにのけぞってしまう。生で見ても顔がいい。